

第3回 看護系大学・大学院生のための HIV/AIDS 看護セミナー

日時・場所 平成 27 年 6 月 6 日（土）11:00～16:00
首都大学東京 荒川キャンパス 468 教室

参 加 者 石川よしえ 国立看護大学校 看護学部 看護学科 2 年
奥田恒士 東邦大学 看護学部 看護学科 3 年
長谷季美 東邦大学 看護学部 看護学科 3 年
杉下詩織 首都大学東京 健康福祉学部 看護学科 3 年
三部初美 首都大学東京 健康福祉学部 看護学科 3 年
大地裕子 熊本大学 医学部 保健学科 看護学専攻 4 年
三浦英里子 熊本大学 医学部 保健学科 看護学専攻 4 年
大林哲也 済生会熊本病院 看護師

ファシリテーター

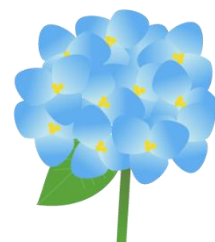
八鍬類子 スターズ訪問看護ステーション 訪問看護師・埼玉県 HIV 派遣カウンセラー
日本エイズ学会認定 HIV 感染症看護師・もと HIV/AIDS コーディネーターナース
及川真理子 がん・感染症センター都立駒込病院 感染症病棟看護師
日本エイズ学会認定 HIV 感染症看護師
柴崎優美 国立国際医療研究センター病院 エイズ治療・研究開発センター病棟看護師
首都大学東京大学院 人間健康科学研究科 看護科学域 博士（前期）課程 1 年
前田ひとみ 熊本大学大学院生命科学研究部 基礎看護学分野 教授

進行・解説 島田 恵 首都大学東京大学院 人間健康科学研究科 看護科学域 准教授

目 標 HIV/AIDS 外来看護の実際をイメージし、その特徴を理解することができる

プログラム

11:00 開会
1. オリエンテーション・アイスブレイク
11:30 2. クイックレビュー HIV/AIDS の復習
11:45 3. ケーススタディ① 外来看護師の面談場面からアセスメントとケアを抽出
13:00 4. ランチ
13:45 5. ロールプレイ 「初診時の問診」に挑戦！
15:00 6. ケーススタディ② さあ 2 度目のケーススタディは？
15:45 7. リフレクション セミナーで得たものをシェアしよう！
16:00 閉会



リフレクションシート

1. HIV/AIDS 外来看護の場面をイメージすることができましたか？これまであなたが持っていた外来看護や HIV/AIDS 患者に対する看護のイメージと比べてどうでしたか？

- ・ 今まで HIV/AIDS についての講義は受けていましたが、そのほとんどが疾病のことと予防のことで、HIV/AIDS 外来看護というひとつの領域があると学びました。外来では、病棟に比べ、患者の生活が見えにくい中で、患者の意思や主体性を最大限引き出す必要があるのだなと思いました。
- ・ 問診を行うことで患者さんとの関わり方を少し勉強しましたが、「この人は HIV/AIDS 患者」という偏見（？）のような認識を自分が少ししているのではないかと感じました。
- ・ 今回のセミナーは、ケーススタディやロールプレイをしたことで、看護のイメージを明確にすることが出来ました。特に、ロールプレイは自分の欠点を見直すこともできたので、とても自分にとってプラスになりました。どうやって話そうかと考えていくうちに自分が混乱してしまい、混乱しないためにも十分な知識が必要だと感じました。また、他人の意見を聞いて「はっきり言うことの方が患者側も楽」という意見で、私はもっと強気でいくことが自分には足りないので必要だと感じました。
- ・ HIV/AIDS の外来 Ns は恥ずかしがってはいけないものだと思っていました。しかし、あえて会話のテクニックとして「Ns も恥ずかしいんです」という態度を出しても良いのだと分かりました。
- ・ どのようにプライバシーの保護を行うか、相手が自ら話す環境をどう整えるか、具体的な方法を事例を通して知ることができた。私が勤務する病院に感染症の専門外来はないが、多くの職員とボランティアで複雑なシステムの外来を運営しており、プライバシーの保護を組み込むとしたら、スタッフ教育に多くの時間が必要だと思った。
- ・ 「保健所」のイメージはありましたが、実際に患者さんが病院にいるイメージがありませんでした。ケーススタディを行って、「プライバシーに配慮する」ということが重要になってくることがイメージできた。Ns が患者さんの緊張や警戒をやわらげる言葉がけをされていて、少し機械的なイメージがあったので、全然違うんだなと思った。

2. このセミナーであなたはどのようなことを得ましたか？また、もっと得たかったことは何ですか？

- ・ 一番勉強になったのは、問診のロールプレイでした。HIV/AIDS は、セクシャリティや性行動と密接に関わっていて、聞きにくい質問をどのようにして聞くか、患者はどう感じるのか、というところが学べたと思います。色々な事例もあり、すごく知識や見聞が広がったと思いました。
- ・ その人その人に合わせた話し方や聞き方を具体的に知ることが出来ました。実際の Ns さんのお話を聞くことが出来てとても良かったです。
- ・ 看護師の行動ひとつひとつに意味があって、(事例) でもその人に合わせた対応の仕方には正解はなくて、使い方によって、例えば恥ずかしさや無言も関係やコミュニケーションを作るうえで活かせるのだとわかりました。
- ・ このようなロールプレイングやケーススタディを訓練する場がもっと欲しいと感じました。
- ・ 問診方法、コミュニケーションの取り方や踏み込みにくい問題へどう踏み込んで、治療につなげていくかを考えることができた。ケーススタディもあったので、どういう患者さんが来るのか、看護師の援助や関わり方について学び、個人に合わせたケアや臨機応変な対応が必要だと思った。
- ・ Ns の行動には必ず意図があって行っているものですが、今回、一つの行動には一つの意図ではなく、複数の意味を持っていることもあるのだと知りました。
- ・ 外来での問診のロールプレイを通して、相手の状況（心理）に即して話を伺い、次回受診にいかにつなげるかを念頭において関わっていくことの大切さを学んだ。
- ・ 言いにくい、聞きにくいことを口にする難しさと、でも必要だからやるべきという気持ちの葛藤があった。→ 今後はもっとうまく言えるよう、聞けるようになりたい。
- ・ ケーススタディを行って、Ns がどんなアセスメントを行って、どんなケアをしてきたのか考えると、色々な可能性がみえて、HIV/AIDS 患者さんに関わる上で、プライバシーの配慮やコミュニケーション能力の重要性を認識できた。「これ言っていいのかな？」と遠回しに伝えようとしたら、相手に伝わらないことがおきたりして、ストレートに伝えることも必要なんだと学んだ。



第3回 看護系大学・大学院生のためのHIV/AIDS看護セミナー



こちらは首都大で参加した
5名(首都大2名、東邦大学2名、
国立看護大学校1名)と
ファシリテーターの皆さん

こちらは熊本大学で参加した
3名

今年は、Web会議システムを
使って、首都大と熊本大学を
結んで一緒にセミナーを行いました！

